

## 日本：貿易統計（2018年12月）

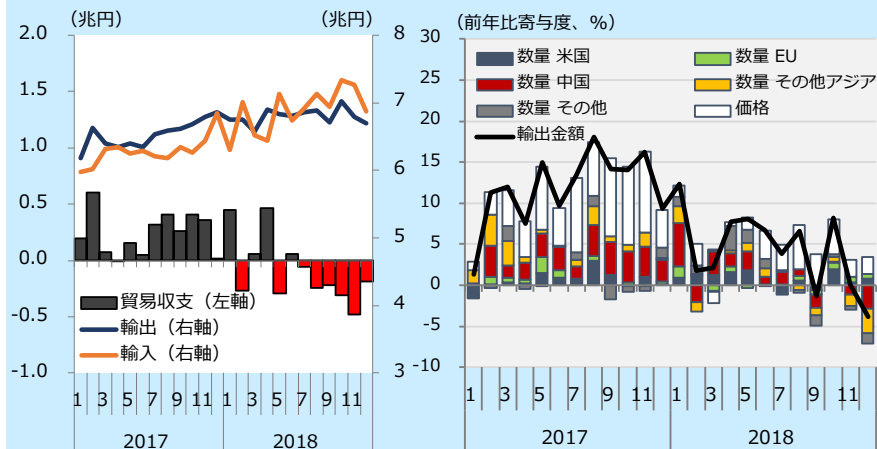
—12月の実質輸出はアジア向けを中心に減少幅が拡大—

MRI Daily Economic Points

January 23, 2019

## 貿易収支

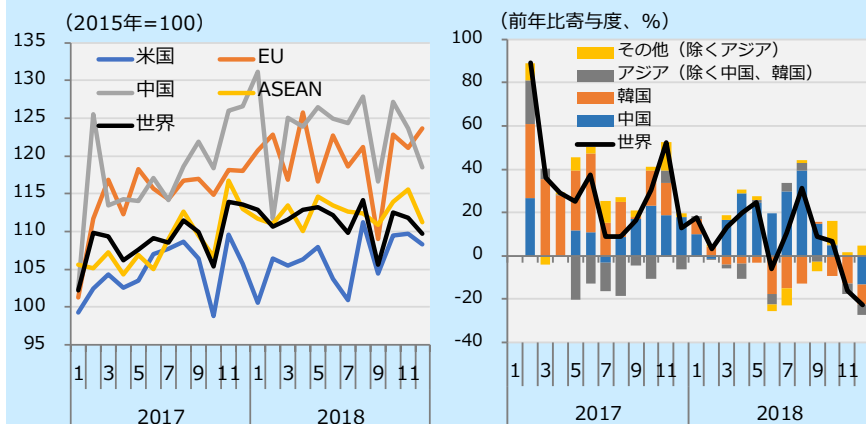
## 輸出額の寄与度分解



出所：財務省「貿易統計」

## 実質輸出：国別

## 半導体製造装置の実質輸出



注：三菱総合研究所の計算による実質・季節調整値。

出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」より三菱総合研究所作成

## 評価ポイント

## 今回の結果

- 18年12月の貿易収支(季節調整値)は、▲1,836億円と、6ヶ月連続で赤字となった。名目輸出は前年比▲3.8%と、3ヶ月ぶりに減少した。名目輸入は同+1.9%と、前月から伸びが大幅に低下した。
- 実質輸出(三菱総合研究所の計算による季節調整値)は、前月比▲2.0%と減少幅が前月より拡大した。ただし、実質輸出を四半期ベースで見ると、10-12月期は前期比+1.3%と、マイナス成長となった7-9月期(同▲2.6%)から、2四半期ぶりに増加に転じた。
- 12月の実質輸出(季節調整値)を国別で見ると、EU(前月比+2.1%)が増加したが、中国(同▲4.2%)、ASEAN(同▲3.8%)、米国(同▲1.3%)は減少した。EU向けは、9月に導入された新車の排ガス規制後の反動減が和らぎ、輸送用機器が増加した。中国向けは、米中貿易摩擦の影響や景気減速から、はん用・生産用・業務用機器や電気機器、輸送用機器が減少し、全体を押し下げた。
- 半導体製造装置の実質輸出は、世界的な半導体関連需要の調整局面入りの影響から、前年比▲22.7%と2ヶ月連続で大幅な減少となった。

## 基調判断と今後の流れ

- 輸出は、海外経済の成長減速などを背景に、横ばい圏内で推移している。
- 先行きの輸出は、米中経済の減速や、半導体関連需要の調整などを背景に、19年度にかけて緩やかな減少が予想される。
- 下振れリスク要因として、①米中貿易摩擦の激化による米中経済の一段の減速や、②日米物品貿易協定(TAG)の交渉による対米輸出環境の悪化、が挙げられる。